

ガイダンス

1. 建築学と他の分野との関わり

→スライド参照

2. 建築環境工学のキーワード

→スライド参照

3. 環境共生学部で用意されている環境調整設備系科目の流れ

→スライド参照

4. 住環境調整工学とは？

→スライド参照

5. 講義の予定

04月14日（金）	第1回目	ガイダンス
04月21日（金）	第2回目	住環境調整の歴史（その1）「森鷗外と建築環境工学」
04月28日（金）	第3回目	住環境調整の歴史（その2）「女性と住環境改善」
05月05日（金）		祝日のため講義なし
05月12日（金）	第4回目	住環境調整の歴史（その3）「暖房の歴史」
05月19日（金）	第5回目	住環境調整の歴史（その4）「冷房の歴史」
05月26日（金）	第6回目	環境デザイン学と環境心理学（その1）
06月02日（金）	第7回目	環境デザイン学と環境心理学（その2）
06月09日（金）	第8回目	中間レポート
06月16日（金）	第9回目	住宅の品質確保の促進等に関する法律に関連する問題（その1）
06月23日（金）	第10回目	住宅の品質確保の促進等に関する法律に関連する問題（その2）
06月30日（金）	第11回目	住宅の品質確保の促進等に関する法律に関連する問題（その3）
07月07日（金）	第12回目	建築のライフサイクルマネジメント（その1）
07月14日（金）	第13回目	建築のライフサイクルマネジメント（その2）
07月21日（金）	第14回目	建築のライフサイクルマネジメント（その3）

注1）上記のスケジュールは、あくまで予定です。検討を加えた結果、予定が大幅に変更になることもあります。

注2）この講義では、住環境の調整に関連する様々な話題を提供することを主眼としています。その中で、興味を持った部分について自分で積極的に学んで欲しいと考えています。従って、特に予習などは必要とはしません。

6. 参考図書（順に、書名、編著者名、発行所、発行年月、価格、ISBN番号、熊本県立大学附属図書館所蔵情報〔〕内）。以下同様。）

- 1) 環境工学教科書研究会編著「環境工学教科書 第二版」(彰国社, 3,500円+税, 「環境設備原論」(2年生・後期担当, 担当者: 辻原) 教科書) [開架2, 525.1||Ka 56, 0000275620]
- 2) 建築設備学教科書研究会編著「建築設備学教科書 新訂版」(彰国社, 3,600円+税, 「環境設備システム学」(3年生・前期担当, 担当者: 細井講師) 教科書) [開架2, 528||Ke 41, 0000275623]

また、講義に関するその他の参考文献は、毎回配布する予定の資料の最後に載せる予定です。

附属図書館の所蔵情報も載せる予定ですので、できるだけ多くの文献に積極的に目を通すようにしてください。

7. 成績の評価

- 1) 出席点とレポートを総合して、評価します。レポートは、中間レポートと期末レポートの2回出題する予定です。なお、定期試験は行いません。
- 2) 出席点が約3～4割、レポートが約6～7割として評価します。
- 3) 毎回、講義の最後に5～10分程度時間を設け、A4判のレポート用紙に5～10行程度、その回の講義の感想・意見・要望などを書いて提出することで、出席点とします。

8. 辻原担当分の講義を行うに当たって

- ・この講義では、できるだけ多くの話題を提供することを目的としています。したがって、それぞれの回の講義では、なかなか深い内容まで踏み込むことができません。そこで、配布資料には、数多くの資料を載せるようにしています。自習の際の参考を考慮のことです。また、参考文献も（附属図書館の所蔵情報を含めて）数多く配布資料に載せる予定です。講義を聴いた後に、自ら、勉強を深めていってください。
- ・講義は、スライドを用いて進めます。できるかぎり、配布資料の順番とスライドの順番を揃えるように努力しますが、場合によっては、ずれることもあります。また、配布資料は前述のように今後の自習のための参考資料の意味もありますので、スライドを用いて説明しない内容もあります。逆に、ビジュアルに見てもらった方が良いものなどは、配布資料にはない内容でもスライドで提示することがあります。配布資料とスライドの性格の違いを考え、両者を見比べながら講義に参加し、必要であれば、配布資料の余白にメモを取るなどして対応してください。
- ・辻原担当の2年生後期配当の環境設備原論とは異なり、この講義では何かを覚えなければならないと言うことがあまりありません。そのようなこともあり、穴埋め式の配布資料としてはいません。できるかぎり、配布資料の余白などにメモを取るようにして、自分で工夫して、講義を受けるようしてください。
- ・ノートを取ることを辻原から求めることはしませんが、ノートを取らないと講義の内容が頭に入らないという場合は、是非ノートを取るようしてください。
- ・講義とは別に、できるだけ、毎回10分間ほどの時間を割いて、皆さんの進路選択の参考となるような新聞記事、雑誌記事、書籍、資料、URLなどを紹介する予定です。4年間の大学生活も折り返し点です。そろそろ大学卒業後の進路を考え出す時期に来ているのではないのでしょうか？

9. 配付資料

講義で配布する資料などは、できるだけ毎回下記のホームページにアップロードしておくので、必要な人や欠席した人は、各自でダウンロードしてください。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/jyuu.html/jyuukan.html>

10. 担当者

担当者の連絡先などは、以下の通りです。

助教授・辻原 万規彦

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4階西南角

電話：096-383-2929（内線492）

e-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp

助手・安浪 夕佳

部屋：環境共生学部旧棟（旧生活科学部棟）4階南側中央付近

電話：096-383-2929（内線482）

e-mail：yasunami@pu-kumamoto.ac.jp

11. その他の注意

- ・担当教員（辻原）に対して生理的嫌悪感などを覚える場合には、その時点でその旨を申し出てください。担当教員（辻原）自身の努力で改善されるような内容であれば、極力改善するよう努めます。しかし、担当教員（辻原）自身による改善が難しくなかつ正当だと考えられる理由を書面で提出した場合には、成績評価の際に、出席点に関する考慮を行います。ただし、その場合でもレポートは、必ず提出してください。
- ・授業時間以外で、担当者に質問をする際には、メールや電話で事前に連絡した方が確実に時間を確保できます。担当教員のオフィスアワーは金曜日4時限（14:30～16:00）ですが、この時間帯と言えども緊急の会議などの用事が入る可能性もあります。事前に連絡がない場合は、やむを得ず対応できない可能性もあります。なお、特に携帯からメールを送る際には、送り主の氏名を明記することを忘れないでください。送り主が明記されていないメールには返答しないこともあります。
- ・担当教員はできるかぎり標準語で話すように努めていますが、これまでの習慣上どうしても関

西弁で話してしまうこともあります。しかし、漫才師などではありませんので、面白い話はありません。

- ・講義の進み具合によっては、講義の時間を延長することもあります。講義終了のチャイムが鳴った後、やむを得ない事情がある場合は、退室しても結構です。講義時間の延長があり得ることに充分注意し、その後の予定を組んでください。
- ・授業などの説明の際には、できるかぎり具体的な事例を交えて説明するように心がけていますが、これが雑談に聞こえる場合、もしくは本当に単なる雑談の場合で、それ以上聞きたくないと思われる場合は遠慮なく指摘してください。速やかに次の説明に移るように努力します。